



サポートグループ「ぶれいす東京」には、年間約500人の感染者・患者らから相談が寄せられる(東京・高田馬場)

増え続ける感染

エイズ 余命延びても残る誤解

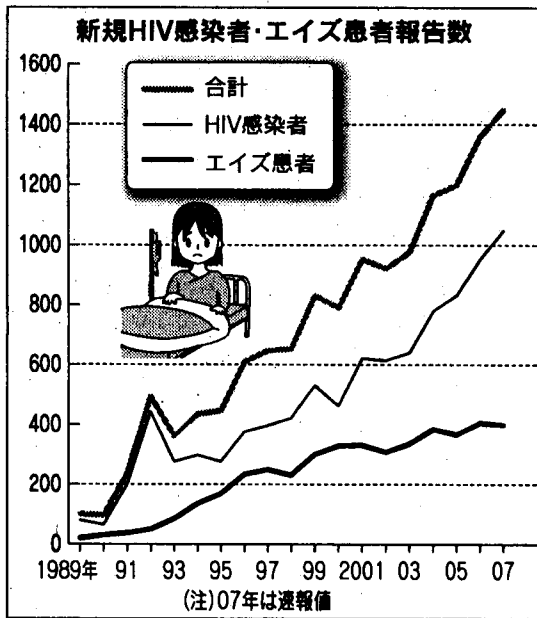
エイズ治療が劇的に進歩している。今や感染者の余命は健康な人とあまり変わらず、糖尿病などと同じように生涯つき合う慢性病となった。昨年、新たに感染が分かった人は、過去最高の約千五百人と先進国で唯一、新たな感染者が増え続けている。背景には、「すぐ死ぬ」「治療法がない」といった古いイメージが今なお残り、病気に対する誤解と偏見が、検査や治療の足かせとなっている事情がある。

東京都に住む自営業、福本淳也さん(仮名、47)は、待ち合わせ場所にマウンテンバイクで現れた。毎日十時間以上の立ち仕事をした上、二時間は趣味の自転車をしていくという。中年太りもなく、同年代の中でも健康的に見える福本さんだが、毎晩の服薬は欠かせない。エイズウイルス(HIV)の増殖を抑える薬だ。二年前に病院で肝炎と診断され、「もしや」と思ってHIVの検査を受けたところ、陽性と診断された。「テレビで見るとはあっても、自分

が感染するとは思っていませんでした」と振り返る。妻と小学生の息子がいる。離婚覚悟で妻に打ち明けたが何とか受け止めてくれた。昨年から服薬を開始。当初は副作用のめまいに悩まされたが、一週間でおさまった。ウイルスはほぼ検出不可能レベルに抑えられている。生活は以前と変わりなく「不景気で仕事時間はむしろ長くなりました」と苦笑する。福本さんは特別なケースで

が感染するとは思っていませんでした」と振り返る。妻と小学生の息子がいる。離婚覚悟で妻に打ち明けたが何とか受け止めてくれた。昨年から服薬を開始。当初は副作用のめまいに悩まされたが、一週間でおさまった。ウイルスはほぼ検出不可能レベルに抑えられている。生活は以前と変わりなく「不景気で仕事時間はむしろ長くなりました」と苦笑する。福本さんは特別なケースで

が感染するとは思っていませんでした」と振り返る。妻と小学生の息子がいる。離婚覚悟で妻に打ち明けたが何とか受け止めてくれた。昨年から服薬を開始。当初は副作用のめまいに悩まされたが、一週間でおさまった。ウイルスはほぼ検出不可能レベルに抑えられている。生活は以前と変わりなく「不景気で仕事時間はむしろ長くなりました」と苦笑する。福本さんは特別なケースで



検査・治療の足かせに 遅れる中高年層の発見

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

発症予防も可能に

一九九五年以前は、二十五歳で感染が分かった人の余命は平均七年。発症するとカリエ肺炎やカポジ肉腫など次々

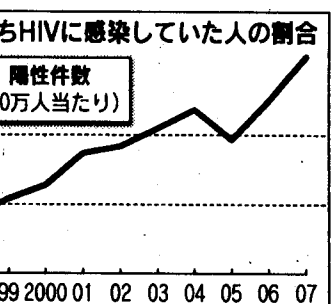
に感染を引き起こし、早く亡くなる人も多かった。その後、複数の薬を組み合わせた治療法が登場。ウイルスを長期間抑えて発症を防ぎ、発症しても日常生活に復帰できることが多くなった。「現在の余命は、推定で平均四十年。最近診断された人なら、健康人と同じ五十年に近くなるだろう」と国立国際医療センターの岡嶋一エイズ治療・研究開発センター長は話す。「なのに社会も医療従事者も、十数年前と認識が変わっていない」と指摘する。

「すぐ死ぬ病気」との誤解や、差別されることへの恐怖が検査へ向かう足を止める。患者・感染者のサポートグループ「ぶれいす東京」で電話相談に応じる生島嗣さんは「不安な人ほど検査に行かない」と指摘する。

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら



「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

自治体の支援薄く

自治体の支援も心もとない。保健所などの無料検査を担う自治体だが、HIV感染者やエイズ患者の多い都道府県の対策予算は、財政難を背景にピーク時から大幅に減っている。二〇〇三年に妊婦を対象とした抗体検査の全額補助を打ち切った千葉県。「ほかの都道府県ではやっていないのに『なぜ千葉だけが』という指

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

「同性愛者と若者の病気」という固定観念も、早期発見の妨げになっている。ゲイや若者は、数が多いがエイズへの関心も高く、八割は発症前に検査で気づく。逆に異性愛者や中高年は、四割が発症するまで気づかない。手遅れになったり、知らずに感染を広げたりする危険も高くなる。現場の認識不足が、さらに不安をおおっている。感染者の過半数は、妊娠や手術前の検査など、病院で感染が判明している。だが「陽性とわかると元の病気の治療も拒否したり、十分な説明をせずにほかの病院に送るケースは少なくない(生島さん)。「陽性とわかったら確実に適切な医療が受けられる体制を作ら

▼HIV ヒト免疫不全ウイルス。エイズの原因ウイルスで、性交渉、注射器の共有、母子感染によって感染する。感染して数年一数十年間は体の免疫機構によって増殖が抑えられているが、じりじりと免疫細胞が破壊し、ある時から急激に増殖。免疫不

全を引き起こす。1990年代後半に抗ウイルス薬を複数組み合わせると体内での増殖を効果的に抑えられることがわかり、日本でも97年からこの治療が始まった。以後、感染者の予後は著しく改善している。

「意見、情報をフックス(03-5265-2420)か電子メール(invyou@tokyo.nikkei.co.jp)でお寄せください。お住まいの都道府県名、年齢、職業、性別もお書き添えてください。